

子どもが疑問や課題をもち、追究しようとする家庭科

山口県下松市立久保小学校 教諭 浅村 芳枝

小学校5年 家庭科 カテイカ

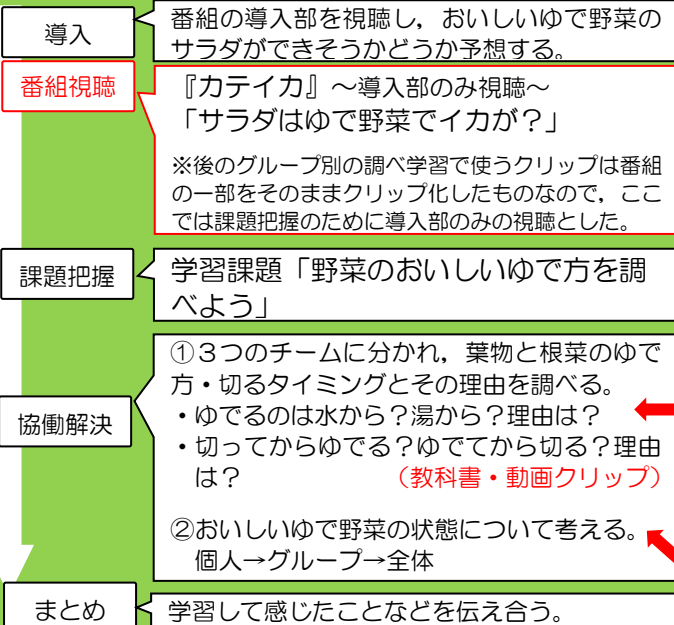
番組の特徴

子どもの失敗しやすい点を取り上げ、それらについてプロがコツを伝えたり、なぜそうするのか科学的に説明したりしている。実際の家庭実践の様子も紹介されており、実践への意欲化を図ることができる。

授業デザイン（1 単位授業時間）

題材：おいしいゆで野菜のサラダを作ろう！

目標：材料や目的に応じたゆで方について理解することができる。



研究の概要

子どもが疑問や課題をもち、追究する授業をめざして研究を進めてきた。実践では全ての題材で番組を活用し、課題について番組や動画クリップ等の動画教材を使って調べ、分かったことをもとにグループや全体で話し合って課題解決していく授業のスタイルをとってきた。このゆで野菜のサラダ作りの授業では、番組視聴は2回目、タブレットの活用は初めてであったが、意欲的に調べ、考えを友達に伝えようとする子どもの姿が見られた。

番組や関連動画クリップの活用意図

課題について考えたい導入での番組視聴

葉物も根菜も切らずに一度に鍋に投入する様子を見て、おいしいゆで野菜のサラダができそうかどうか予想させることによって、上手な野菜のゆで方を調べようとする意欲が高まると考えた。

調べる必然性をもたせた動画クリップの活用

教科書には葉物と根菜のゆで方は載っているが、なぜそうするのかという理由は載っていない。動画クリップにしかない答えを見付けようと、子どもはグループに1台のタブレットを使って、協力しながら積極的に調べ学習をするだろうと考えた。

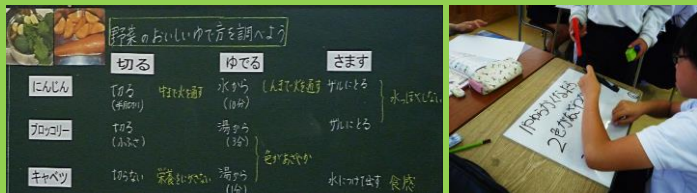
思考の可視化にかかわる教師の工夫

各グループで調べたことが一目で分かる板書

各チームで調べた調理法とその理由が一目で分かるように板書をしたので、葉物と根菜のゆで方の違いや野菜による切るタイミングの違いについて、子どもは理解しやすかった。

グループでの話し合いでのホワイトボードの活用

おいしいゆで野菜とはどのような状態かということについてグループで話し合う活動では、ホワイトボードに大事と思う順に3つ書かせた。大事だと思う順に書かせることによって、それぞれの考えの根拠を出し合い、話し合いを深めることができた。



生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- 大きく切り過ぎると火が通らず、小さく切り過ぎると火が通り過ぎるので、切る大きさも大事だと思った。
- 栄養をたくさん残すにはどうしたらよいのだろうと思った。

評価シートから

実践前後で有意差が見られた項目は以下の通りである。

- 学習した内容を友達や先生に正しく説明できると思いますか
- 楽しく学習することができると思いますか
- 授業に集中して取り組むことができますと思いますか
- 学習したことをもっと調べてみたいと思いますか

同僚の評価

- 動画クリップの視聴がとても効果的だった。

実践を終えて

授業では、動画クリップにしかない答えを見付けようと協力して調べ学習に取り組むことができた。各グループの調査結果を共有したことで、それぞれの野菜の調理方法の共通点や相違点に気付かせることができ、材料に応じたゆで方についての理解も深まった。また、切る大きさやより多くの栄養を残す方法に目を向けるなど、本時の学習の先を考えようとする子どもの感想も見られた。今後は、技能の習得の場面でも番組を有効に活用していきたい。